

日本色彩学会活動功労賞

日本色彩学会活動功労賞を受賞して

On receiving the CSAJ Activity Contribution Award

眞鍋 佳嗣

千葉大学

Yoshitsugu Manabe Chiba University



このたびは、日本色彩学会活動功労賞を賜りましたことを、誠に光栄に思います。これまで一緒に活動してきた皆様に感謝いたします。

この活動功労賞ならびに査読功労賞は2020年に理事会に提案、承認され、2021年に1回目の表彰が行われ、今年で3年目になります。

学会は、各種委員会活動、支部活動、研究会活動などの様々な活動で成り立っています。この様々な活動が円滑に行われているのは、会員の皆様のボランティアです。また、学術団体として重要な論文誌の論文の査読もボランティアです。各種委員会や役員、査読などの活動に会員の皆様の貴重な時間を割いていただき、学会活動を支えていただいています。しかしながら、このような方々の貢献に対して感謝する機会がほとんどなく、そのため、学会として謝意を表すために、この賞を設置いたしました。両賞とも毎年2名程度と学会活動を支えていただいている方の人数からすると少ないですが、少しずつでも労うことができると考えています。

さて、私が日本色彩学会に入会したのは、大学院に進学した時で、その当時の指導教員から勧められたわけではなく、たまたま何かを見て自分で入会しました。何がきっかけだったのか思い出せないのですが、もしかしたら、卒業研究で参考にさせていただいた色彩科学ハンドブック第一版かもしれません。研究としては、反射特性などの物理モデルをRGBカラー画像に適用した解析や、分光画像の計測・処理など、現在の研究の基礎となっているテーマを行っていました。

その後、2000年に関西支部役員に就任し、これが色彩学会での学会活動の参加のきっかけになりました。ただし、就任当初はほとんど仕事をしておりませんでした。そして、2006年から理事(庶務担当)を、富永昌二先生、小林光夫先生が会長の時に4年間務めさせていただき、色彩学会がどのように運営されているのかを勉強させていただきました。この時の経験が、今でも役に立っています。またその当時、他の情報系

の学会の理事も担当していたため、学会運営の仕方を比較しながら経験できたこともよかったです。

また、小林会長の時には、学会の各種規程類の見直しが行われていました。この見直しに携われたことも、学会だけではなく職場においても非常に役に立っています。

次に理事になったのは、2019年度からの4年間になります。高橋晋也先生、篠田博之先生の会長の元、学術担当の副会長として学会運営に携わせていただきました。この4年間、学会の財政再建のためにいかに支出を減らし、収入を増やすか、ということを理事会で議論してきました。支出を減らすために、支部、研究会にかなり無理をしてもらいました。ちょうどコロナ禍だったこともあり、交通費や会議費を削減していただき、大変助かりました。一方、収入を増やすことに関しても、収益事業の開催をお願いし、多大な負担をかけたことを申し訳なく思っています。これまで、研究会を主体とする収益事業をほとんど行ってきていなかったもので、試行錯誤しながらお願いをすることになり、いろいろと混乱させてしまいました。

もう一つ、色彩学会に関わって大変貴重な体験をさせていただいたのが、AIC2015の実行委員会になります。2008年9月に第1回のAIC準備委員会が、その後、2010年12月に第1回の実行委員会が開催され、準備委員会8回、実行委員会25回が行われました。私は幹事を務めさせていただき、国際会議の企画、運営、実施に関わり、いろいろと勉強させていただきました。特に、海外からの参加者に、VISA取得の書類の作成なども担当し、いろいろと大変でしたが、大変充実していました。

今回、理事を退任し、一区切りついたところですが、まだまだやり残していることも多く、ちょっと一息ついて、今後も引き続き、色彩学会の活動に協力していきたいと思っています。

この度は、本当にありがとうございました。